

令和元年度 事務事業総点検シート(1)  
[平成30年度事務事業]

一般会計		事務事業分類		詳細点検	
事務事業名 堺市展開催事業		シート番号		A 一般事務事業	
担当部署名 文化観光 局 文化 部 文化 課		評価責任者(課長名)		辻尾	

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	2	誰もが幸せで、暮らしの質の高いまちを実現します	後期実施計画の位置付け
			施策	2	文化芸術活動の振興	無
	2	事業開始年度	昭和 22 年度		終了(予定)年度	— 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	文化芸術基本法、自由都市堺文化芸術まちづくり条例			
	4	関連計画	自由都市堺文化芸術推進計画			
5	事業実施の経緯	戦後の文化復興をめざして、昭和22年に第1回堺市展が開催され、令和元年度に73回目を迎える。				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ( )			
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか。)	市民を中心に美術創作活動に携わる者及び美術鑑賞愛好家			
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか。)	広く美術作品を公募し、将来の文化芸術を担う人材の育成や美術文化の一層の発展を図る。また、優れた美術作品の展示を通して市民に芸術鑑賞の機会を提供し、文化振興に寄与する。			
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	堺市と公益財団法人堺市文化振興財団の共催で、日本画、洋画・版画、彫刻・立体造形、工芸、写真、書道・てん刻の6部門の美術作品を公募し、文化館ギャラリーで入賞・入選・招待作品の美術展覧会を開催する。また、前回の入賞作品等による「優秀作品展」と芸術新人賞受賞作家による展覧会「NEW FACE ART 堺」を翌年夏に開催。			
10	直接実施以外の主な支出先	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ( ) 公益財団法人堺市文化振興財団				

Ⅲ. 投入量

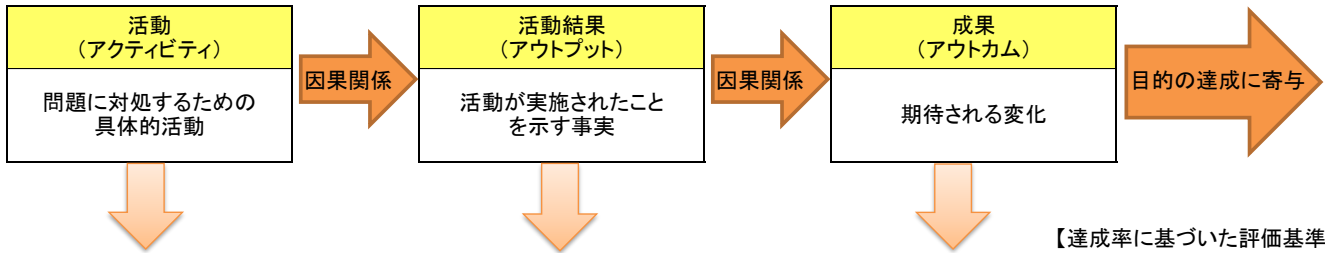
項目		単位	H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R1年度予算	
事業コスト	11 事業費 (a)	千円	5,903	6,214	6,123	6,214	
	主な事業費内訳	負担金	千円	5,903	6,214	6,123	6,214
			千円				
			千円				
			千円				
			千円				
	財源内訳	国・府支出金	千円				
		受益者負担金(使用料、手数料等)	千円				
		市債	千円				
		その他( )	千円				
		一般財源	千円	5,903	6,214	6,123	6,214
12	人件費 (b)	千円	1,640	1,640	1,640	1,620	
13	総コスト(c)=(a)+(b)	千円	7,543	7,854	7,763	7,834	

## 令和元年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	堺市展開催事業	シート番号	08-33
-------	---------	-------	-------

### ≪Ⅳ. 評価(測定・分析)≫

#### ロジックモデルの考え方



[14]平成30年度実績の欄に定性的・定量的情報も含め、活動・結果・成果について具体的に記載

[15]または[16]に定量的な指標、または定性的な目標を記載

#### 【達成率に基づいた評価基準】

評価	達成率
大変良い	120%以上
良い	100%以上120%未満
普通	80%以上100%未満
少し悪い	60%以上80%未満
悪い	60%未満

#### 事業の活動内容や成果

		平成30年度実績						
活動実績と成果	14	<p>応募点数も一定の水準を維持しており、堺市展が定着し広く美術作品を公募できる事業として継続できた。また、応募者の中には、受賞を重ね最高位の賞を受賞されるなど、本展を目標として制作されており、将来の文化芸術を担う人材の育成や美術文化の発展に寄与することができた。</p>						
	15	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	15	応募点数	点	目標値	700	700	700	600
				実績値	590	565	562	
				達成率	84%	81%	80%	
				評価	普通	普通	普通	
	算出方法・設定根拠など		全6部門の応募点数の合計(現在までの応募実績を勘案し設定)					
	16	指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
	16	観覧者数	人	目標値	4,200	4,200	4,200	4,200
				実績値	3,529	5,055	4,138	
達成率				84%	120%	99%		
評価				普通	大変良い	普通		
算出方法・設定根拠など		全3期の開催期間中の観覧者の合計						

#### 業績の分析

	目標を達成できた、または達成できなかった要因についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
17	<p>応募点数については、平成29年度から一定の水準で推移している。また、会場として堺市立文化館を使用しており、堺市展の会期と堺 アルフォンス・ミュシャ館の休館期間が重なっていたため、観覧者数が減少したと考える。</p>

#### 【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 事業の有効性は高いですか。低いですか。